

麻しんキャッチアップキャンペーン **院長**

4月から麻しん(はしか)の予防接種対象者が拡大することをご存知ですか。昨年春、小中学校や高校、大学で集団発生し休校など大きな社会問題になりました。6月の院内報に「成人麻しん大流行?!」というテーマで掲載したので、ご存知の方も多と思います。この社会問題を踏まえ、4月から麻しん・風しん混合ワクチンの接種対象者が拡大されることになりました。

念のため麻しんについて、復習しておきましょう。感染経路は空気感染で、感染力が非常に強い病気です。インフルエンザも感染力が強い病気で、ひとりの患者から免疫を持たない人2~3人に感染を起こします。麻しんは同じ条件で12~18人に感染を起こすほど、インフルエンザ以上に感染力が強いのです。患者さんに接触し症状が出るまでの期間を潜伏期と呼び、麻しんの場合は10~12日前後です。初期の症状はカタル期(3~4日)と呼ばれ、熱・鼻水・咳・めやに等で、カゼとの区別はつきません。その後一旦熱が下がりますが、再びの熱の上昇とともに発疹(発疹期4~5日)がでます。顔から始まる発疹は全身に広がり、高熱(39~40度)で咳もひどく、次第に全身状態もおかされていきます。回復期(3~4日)には発疹が薄くなると同時に熱が下がり、次第に色素沈着が見られるようになります。発疹が出る前に、口の中の両側にコプリック斑(白い斑点)が特徴で、比較的早期の診断に役立ちます。全身状態がおかされる程度は強く、4/10人は入院となり、1/1000人は死亡すると言われています。麻しんは中耳炎など合併症の多い病気ですが、重大な合併症には肺炎と脳炎があり時には死亡することもあります。

麻しんという小さい子どもの病気と思われがちです。また様々な表現、例えば「恋ははしかのようなもの」などといわれることがあり、過ぎ去れば忘れてしまう程度の軽い病気という誤解もあります。しかしながら、今年1~3月までの年齢別麻しん報告数(感染研)では、15~19歳(1139人)がもっとも多く、続いて10~14歳(892人)、20~24歳(638人)の順で、1~4歳(379人)と比べてはるかに多く報告されています。また重症の合併症である脳炎も成人に多く、2004年には健康だった28歳の女性が脳炎で死亡しています。2007年には9人の脳炎が報告され、いずれも10~20歳代でした。今年も3月までに同じ年代の3人が報告されています。

世界に目を向けてみると、麻しんに対する積極的な取組によりアメリカでは2000年、韓国でも2006年に撲滅されま

した。昨年、修学旅行中の高校生や少年野球チームの小学生が海外で麻しんを発症し、大きな問題になっただけでなく、隔離のために飛行機に乗れなくなり帰国できないという事態も起きました。このように、日本は先進国の中でも、麻しんの輸出国という恥ずかしいレッテルを貼られています。



皆さんもご存知のように、麻しんには治療法も無ければ、ワクチン以外の有効な予防法もありません。うがいや手洗い、マスクなどで予防できる病気では無いのです。従来麻しんの予防接種は1歳から7歳半に受けることになっていましたが、未接種者が多かったこと、予防接種を受けても免疫の付かないこと、また年月の経過により免疫力が低下することが、10~20歳代の麻しんの増加の原因(2007.6月号)です。その反省から2006年から麻しん・風しん混合ワクチンを第1期:1歳の1年間、第2期:小学校入学前の1年間の2回接種になりました。今回、日本でも麻しんの撲滅目標を2012年として対策をとることとなり、新しい対応がとられることになりました。

この新しい対応は麻しんキャッチアップキャンペーンともよばれ、麻しん撲滅のための従来の予防接種行政では考えられない画期的な方法です。2008年4月から5年間に限り、第3期:中学1年生に相当する年齢、第4期:高校3年生に相当する年齢が対象になります。推奨期間は4~6月ですが、接種期間(翌年の3月31日)であれば接種は可能です。また未成年者の予防接種では保護者の同伴が原則ですが、接種率を上げる目的で同伴できない場合は同意書を持参すれば可能になりました。5年間ということは中学1年生が3期を逃すと4期の接種ができなくなります(中学1年生は5年後は高校2年生です)。3期と4期、2回チャンスがあるように思われますが、実際には1回だけなので誤解しないようにしてください。時期を逃しても接種は可能ですが、その場合は任意接種となり1万円以上の負担が必要になります。金銭的なことは言いたくはありませんが、麻しんにかかった時の医療費だけでなく予防接種代金のことをしっかり考えてみてください。

麻しんを撲滅するためには、予防接種率が95%を超えることが必要です。予防接種は自分を守るだけでなく、周りの人たち、社会ひいては国を守ります。第1期・第2期を受けることはもちろん、せっかくのチャンスですから5年間に限定されている第3期、第4期に該当する人は、必ず受けるようにしましょう。

読者の広場

先月は、18通のメールを頂きました。最近は医療相談が比較的多く、プライバシーに関わることなので掲載はなかなか難しいところです。まずは青葉区の佐藤さんからのメールです。「昨日は、本当にお世話になりましたm(_)_m佐藤レオの母です。先程、帰長さんからお電話をいただきました(^0^)いつも、あたたかいお心づかいありがとうございます。感激ですm(_)_m昨日、点滴をしていただいて本当によかったですと思っております。あれから一度も吐くこともなく、グツツリすることもありません。逆にすごい食欲で元気が続いております(^_^)うれしい限りです！先生のところに行くと、知識が増えます！先生も、もちろんですが看護師さんもすごくよく説明してくれて安心と共に勉強になります！暴れた時には、恥ずかしさでいっぱいでしたが…いつもお世話になりっぱなしです。ありがとうございましたm(_)_m帰長さんをはじめとするスタッフの皆様にもよろしくお伝えくださいm(_)_mあらためて、先生にみていただいてよかったですと思っております(^0^)/」。ありがとうございます。いつも書きますが、このようなメールはクリニックのモチベーションをさらに高めてくれます。スタッフみんなも喜んでます。



予防接種のお知らせ

一面記事にも掲載しましたが、4月1日から麻しん・風しん混合ワクチンの対象者が拡大しました。

麻しん・風しん混合ワクチン(5年間限定)

- ・第3期 中学1年生に相当する年齢の者
(年度内に13歳になる者)
- ・第4期 高校3年生相当する年齢の者
(年度内に18歳になる者)

接種期間は麻しん流行前の4～6月が推奨ですが、年度末(3月31日までは定期接種として対応)。平成20～24年度(限定期間)の年度ごとの対象者を右の表(国立感染症研究所提供)に示しましたので参考にしてください。

NID 平成20～24年度 麻しん・風しんワクチン定期予防接種対象者

第1期：生後12か月以上24か月未満の者

第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校入学前の1年間

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
平成14/4/2～ 平成15/4/1生	平成15/4/2～ 平成16/4/1生	平成16/4/2～ 平成17/4/1生	平成17/4/2～ 平成18/4/1生	平成18/4/2～ 平成19/4/1生

第3期：中学1年生に相当する年齢の者(年度内に13歳になる者)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
平成7/4/2～ 平成8/4/1生	平成8/4/2～ 平成9/4/1生	平成9/4/2～ 平成10/4/1生	平成10/4/2～ 平成11/4/1生	平成11/4/2～ 平成12/4/1生

第4期：高校3年生に相当する年齢の者(年度内に18歳になる者)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
平成2/4/2～ 平成3/4/1生	平成3/4/2～ 平成4/4/1生	平成4/4/2～ 平成5/4/1生	平成5/4/2～ 平成6/4/1生	平成6/4/2～ 平成7/4/1生

※平成12/4/2～平成13/4/1生まれの者および平成13/4/2～平成14/4/1生まれの者は、それぞれ平成18年度および平成19年度の第2期定期予防接種対象者でした。

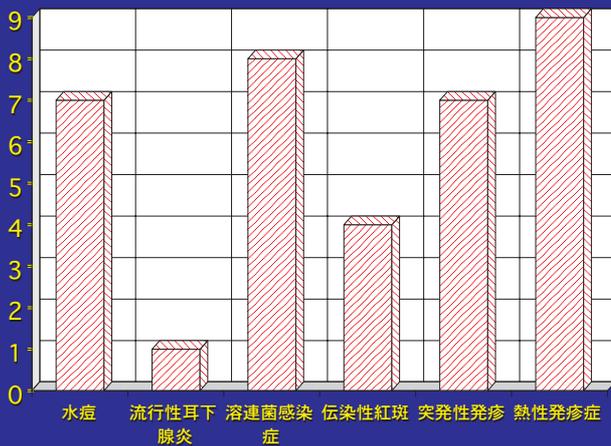
IDSC

麻疹教育啓発ビデオの紹介

国立感染症研究所感染症情報センターでは、麻しんの症状や問題点を解説したビデオをインターネットで公開しています。15分程度でよくまとめられて非常にわかりやすく、一面の記事作成の参考にもしました。是非一度ご覧になってください。待合い室でも、時々流すようにしています。

「はしかから身を守るために」 <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/Video/measlesVideo.html>

3月の感染症の集計



特別流行している感染症はありませんが、溶連菌感染症が多いという印象です。インフルエンザは9名と明らかに減少、検査で確認できないC型あちこちでみられていたようです。感染研に報告があるのでご覧ください。麻しんは関東特に埼玉県で多数発生していますが、宮城県での流行はありません。

育児サークル『お母さんクラブ』会員募集

子育て支援のための育児サークルがあります。福沢市民センターで、年8～9回程度、木曜日の午後開催しています。5月から新年度になります。詳しくは、院内掲示を。

雑誌掲載の御案内

「ひよこクラブ」4月号 (3月15日発売)

“小さく生れた赤ちゃんのしあわせ成長アルバム”を監修しました。新生児科医だった院長からのメッセージ、親御さんの心配にも答えています。心配は育児全体にも関連するので、未熟児以外のお子さんにも役立つはず。待合い室にも置きますので、是非ご覧ください。

編集後記

今年もインフルエンザの流行は小規模に終わりました。ワクチン力なのでしょうか。かと言っても嘔吐下痢症などは多く忙しい時期であることには変わりありませんでした。麻しんに関しては先進国としてはずかしい限りです。2012年の麻しんの撲滅に向かって、皆さんも是非ご協力ください。



栄養育児相談

- 毎週水曜日 13:30～
- 栄養士担当 参加無料
- 東北大学医学部学生実習
- 4月11日(金)
- よろしくお願ひ致します。

4月のお知らせ

